



こうべ森の学校だより

No.69 2016年3・4月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会
発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1
神戸市森林整備事務所内
Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

ごあいさつ

神戸市建設局公園部
森林整備事務所 所長

みちき りゅうた
道木 柳太



このたび4月1日付けで赴任しました道木です。どうぞよろしくお願ひします。早速、私事で恐縮ですが、実はこの事務所の勤務は今回が2度目です。前は平成9年度からの3年間でした。当時は

市内でも「森林整備事務所」を知らない職員も多く、植物園と混同されることもしばしば。

折りしも震災の直後、予算や人員の締め付けは益々厳しく。六甲山と仕事を守るため、森の手入れの重要性を市内にも市民の皆様にもアピールしなくてはならないと、着任の前年度から「市民参加の森づくり」を始めたばかりの頃でした。まずは「森の小学校」でした。そして私の異動後、「森の学校」が開校したとのこと。時折、再度公園を訪れるたび、新たな施設や森の手入れが進んでいる様子を楽しんでいました。

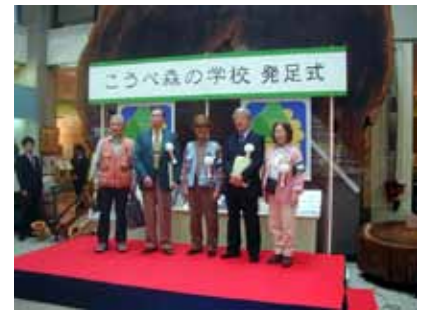
森の手入れは本来、非常に危険を伴う作業であることは、既によくご存知とは思いますが、今後とも安全重視のうえ、お楽しみいただきますよう、お願いいたします。

写真で迎える初期の森の学校



平成15年7月21日再度公園にて「こうべ市民演習林」がスタートしました。(平成15年8月7日撮影)

平成15年11月3日神戸市立森林植物園にて当時の矢田神戸市長を迎えて「こうべ森の学校」が発足しました。



平成19年4月16日待望のログハウスが完成し、風楽山荘と命名されました。画像は完成式典の様様。



平成28年3月12日例会の集合写真

5年間ありがとうございました

前森林整備事務所長 重藤 洋一



「こうべ森の学校」の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

この度、4月1日の神戸市役所の人事異動により、森林整備事務所を離れることとなりました。

平成23年に赴任して以来5年間、一貫して「こうべ森の学校」の担当をさせていただきました。「こうべ森の学校」の皆様、伊藤ハム株式会社の皆様には、多方面にわたりお世話になり、本当にありがとうございました。

森林整備事務所へ赴任した平成23年4月1日は、東日本大震災の起こったわずか3週間後でした。その際、震災後のわずかの期間の間に、自分たちで焼いた炭を被災地に送られたことを教えていただき、その行動力に驚かされました。そして、初の例会日、スタッフの皆さんのきびきびとした動き、一般参加の方への的確な説明を見たときに、素晴らしい森林ボランティア活動が運営されていることを感じました。

この5年間は、こうべ森の学校、森林整備事務所ともに大きな変化があった期間でした。「六甲山森林整備戦略」の策定、「こうべ森の学校10周年」では多くの記念イベントや自然観察マップの作成、東北支援として名取市「ゆりりんの会」との交流・仮設住宅への表札づくり、風楽山荘での事務局機能の強化、新しいスタッフ体制……。振り返ると、これまでの活動を受け継ぎ、今後も発展していくための基礎固めの時期であったかもしれせん。

明治期に禿山だった六甲山は、植林を始めて110年

余りで緑の姿を取り戻しました。私たちの活動はこれから10年後の六甲山の森づくりを目指すものです。阪



平成23年4月17日の例会にて

(左から重藤さん、高畑さん、村尾さん)

神淡路大震災から20年を過ぎ、神戸のまちも震災復興だけでなく、将来の発展を考える時期に来ています。「こうべ森の学校」の活動も、少し遠い将来ですが、次世代の方たちに豊かな自然を残せるよう「楽しみながら」活動していただければと思っています。

私の次の職場は、(公財)神戸市公園緑化協会で神戸総合運動公園の管理運営に携わることとなりました。神戸総合運動公園は、ユニバー記念競技場、ほっともっとフィールド神戸(野球場)やグリーンアリーナ神戸(体育館)といった全国レベルの運動施設のある大規模公園ですが、園内には里山もありボランティアの方が森づくり活動をされています。ここでも森林整備事務所で得た経験を生かせるよう取り組んでいきたいと思っています。

また、今後も立場は違っても、様々な形で六甲山に関わっていくことになるかと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

最後になりましたが、新しい森林整備事務所のスタッフとともに、「こうべ森の学校」がますます発展していくよう願っております。

六甲山の恵み【JR 摩耶駅】



3月26日に開業したJR神戸線の摩耶駅に早速行ってみたところ気になるものを見つけました。

駅全体は白を基調とした明るい作

りです。改札口横の壁面に大型のディスプレイがあり、それを収める枠が六甲山系のスギの間伐材を利用して

いるとの表示がありました。ソーラーパネルの設置など、省エネを意識した構造が話題になってい



ますが、六甲連山の名峰「摩耶」の名にふ意外なところにスギの間伐材がさわしい、素敵な演出だと感じました。これに見習い私たちが六甲山の恵みを有効利用していきたいですね。



アウトドアから森林ボラへ

藤原 恒夫

若い頃は、よく山に登りました。高取山から六甲山へ、そして北アルプスへ。山岳小説をザックに入れ、北アルプスはほとんど登りました。長野県まで行くと、山麓にはスキー場があります。尾根筋、谷筋にもあります。雪のない季節に山を望むと、緑の中に禿げた部分がここあ



鳥取県大山スキー場

れず、登山は減っていきました。そこへスキーブーム到来！さらに自然が荒らされるではないか。自身、心配すると思いきや、気づけばスキーに夢中になっていました！???（スキーは面白かった）

自然破壊といえば、ゴルフ場も同じ。バブル期には日本全国、雨後の筍のように出来ました。ゴルフ場は芝生の管理のため多くの農薬を使います。「これは環境破壊だ！ゴルフはアカン！」

しかし仕事柄、接待ゴルフは避けることが出来ません。最初は、仕方なくやっておりました。気が付けば、プライベートでも行くようになり、練習もよくやりました。（ゴルフも面白かった）

やがて、バブル崩壊する中で、多くのスキー場が経営破綻し、今は野ざらし状態になっています。ゴルフ場も新たな開発はなくなり、色々と規制が設けられてかつての悪いイメージはなくなりつつあります。

しかし、社会人になってからは、リゾート法のブームに流されて来ましたなあ。アウトドア派としては自然に負荷をかけ過ぎでしたわ。もう少し自然と共生しながら遊べるものはないのかと・・・しかもお金があまりかからないような。

ありましたわ。川下りです。屋形船で美味しい料理と



カヌーで川下り

そこ・・・年々開発は進む。「これは自然破壊だ！スキーはアカン！」

やがて社会人になってからは、中々まとまった休みが取

お酒ではなく、カヌーでダウンリバーあります。近場では、淀川、木津川、保津川、遠征して熊野川、長良川、四万十川、釧路川と多くの川を下ってきまし

た。人の入れない河原でキャンプもしました。いい川では、人々は必ず川辺で散歩します。そこでカヌーイストと現地の人で交流があります。話しは、だいたい川と周辺の自然の恵み、天候などになりますが、年配の方からは「昔の川はもっときれいだった。良かったよ」という話になります。

こちらにしてみれば、十分きれいに思っているのですが・・・昔の川はもっと澄んでいたし、少々の雨でも全然濁らなかったし、魚もエビもカニもいっぱい獲れたそう。そう言えば、昔は川漁師もいたみたいだし、やっぱり相当の変化があったのだろう。自分自身、川を下っていると、下流へ行けば行くほど、土手がなくなり河畔林もなく岸壁はコンクリートになっています。自然に蛇行している川にバイパスを作って直線をしているところもあります。治水という面でこのような川の管理をしているのですが、問題もありそうです。ダムもそういった面があります。



愛用のファルトボート

川の周辺で人口集中が起きますと、必ず川は汚れます。原因は工場排水であったり、生活排水によるものですが、下水処理の環境が整い、水質はかなり改善されてきました。しかし、川の上流域では、問題が残っています。少々の雨で川が濁ってしまう事です。

「山が荒れると、川も荒れる。川が荒れると、海も荒れる」という言葉がありますが、日本の山＝里山は適正に管理されてこそ川と共生出来ます。燃料としての木材の需要減。建築材は、木材輸入自由化によって国内材が外材に取って代わり、日本の林業は衰退しました。それで、多くの里山は放置林になってしまったのです。手入れのされない森は、生い茂り、光が届かなくなった地面では下層植物も育ちません。保水力の低下した山ではちょっとした雨でも土砂が流れます。このように山が放置されると水害が多発します。

森は適切に管理しなければならない！ということで、どうすれば良いか。まずは、森をもっと知らなければ。ある日、神戸市の広報を見ていたら、こうべ森の学校の欄がありました。PCでホームページを開いたら、月例会の他に火木土も活動しているとのこと。私は、翌週の活動日9時半に風楽山荘の門を叩いておりました。平成25年の11月のことです。

宮城県の仮設住宅で追悼行事の支援 他

木下 英吉

3月11・12日、ひょうごボランティアプラザの37回目となる東北ボランティアバスに34名(16～77歳)が参加。宮城県名取市・登米市(南三陸町志津川地区の被災者が入居)の仮設住宅で、追悼行事の支援や住民との交流を、仙台市では農地整備を行いました。

○11日(金) 名取市箱塚桜団地と愛島東部団地仮設住宅
この二つの仮設住宅には、昨年12月年末清掃に続いて



愛島東部にて竹灯籠に点灯

の訪問で、それぞれの仮設住宅に分かれて入りました。私達は、箱塚桜で予め要望のあった部屋の清掃を2人一組でかかり、30分程で全て完了したので、余時間で

仮設住宅敷地周りのゴミ拾いを2人で燃えるゴミ・燃えないゴミに分別しながら、1周廻ったところには45ℓ袋が満杯になるほどでした。前回訪問してからそれ程月日が経っていないので、あちこちで「また来ていただいて、ありがとう、どうもねー!!」と、声を掛けていただく。

また愛島東部の班は、犠牲者名が書かれた竹灯籠300本を神戸から持込み、追悼行事の準備です。「3・11」、「ユリアゲ」の文字に並べ、水を入れてローソクを浮かべます。14時30分頃には、その周りに住民やボランティア・報道関係者が所狭しに集まっていました。犠牲者名が書かれた竹灯籠を見つくと、神戸の「1・17希望の灯り」から分灯された火をローソクに移し、気持ちを込めて火を点けられていました。14時46分の発災時刻には、全員で1分



名取市日和山で黙祷

間の黙祷を捧げ、また17時46分(阪神・淡路大震災の発災時刻5時46分に因み)には、その場に居る全員が竹灯籠を囲むように手を繋ぎ・心をついに1分間の黙祷を捧げました。

終了後は、仮設住宅集会所で交流です。住民とボランティアが思い思いの席に座り、普段の何気ない話や近況をお互いに交し、あっという間に楽しい一時が終了しました。またの再会をお願いして、本日の活動が終了です。

○12日(土) 仙台市若林区種次で農地整備と登米市イオン南方店跡地仮設住宅で交流に先立ち、海岸近くの震災慰霊之塔で、全員で黙祷を捧げました。近くにある荒浜小学

校(4階建て)は、震災当日に校舎内に居た全員が上の階に避難して無事だったとのことで、この小学校も3月末を以て閉校となるようです。



荒浜地区で小石拾い

市社協の案内で、種次地区で農地整備です。農地には、小石やガラス片も交じり、慎重に取除いていきます。中にはコンクリート片も見つかり、掘り進むと80cm四方(20cm厚)が顔を出して、3人がかりで集積場所に移しました。行政が行ってきた、農地から出た小石やガレキ等の無料回収が3月末で終了となり、ここにも支援の縮小が窺えました。土嚢袋12袋分の小石が集められ、また若い参加者には土嚢袋の結え方を覚えてもらいました。

午後は、登米市(南三陸町の西隣に位置し、町内で仮設住宅用地が確保できないため、同市内で用地を借り受け入居されている)にある仮設住宅で、住民との交流です。昨年末の清掃に続いての訪問で、集会所に案内されると既に部屋の半分程に住民の皆様方が座っておられ、あちこちから「誰々さん、また来てくれて、どうもねー!!」との声で、迎えていただきました。自治会長の挨拶後、昨日追悼行事を行った祭壇に、ボランティア一人ずつが献花をさせていただきました。

10人位毎で入混じって車座になり、震災当時から現在の日常の様子を聞かせていただきました。その中で、「4月に1/3程の住民が災害公営住宅に移る予定で、喜ばしいことだが、後に残る住民には不安と寂しさで、複雑な思いが交叉している」との話しに胸が痛みました。

その後、ボランティアのギター演奏をバックに全員で合唱です。東北の様子や今の季節を選曲して、途中、涙を流しながら歌っている方も居られ、全員が大きな声で最後まで歌い切りました。最後に、森学スタッフの村上(文)氏がボランティアからの挨拶をされ、また今年中の再会をお願いして、仮設住宅を後にしました。

今回は、10～20代の参加者が11名と多く、被災地に関心を寄せていることが嬉しく、住民の方々もより喜ばれていたように感じました。その気持ちを持ち続けていただきたいと思います。



登米市仮設住宅で献花

六甲の野鳥撮影の記録 (その 11)

日本野鳥の会会員

村瀬 眞一郎

全日本写真連盟会員

今回は、川や水田など水辺でよく見られるサギ科の野鳥を紹介します。なお、アオサギは、以前に紹介してしますので省略します。

また、めったに見られない珍しい野鳥がきましたので紹介します。

[コサギ]

全身が白色で、嘴は一年を通して黒色です。足も黒色ですが指は黄色です。サギのなかでは小型です。首を縮めている姿もよく見えます。水辺では足早に歩きまわります。



コサギ

[チュウサギ]

コサギより大きく、全身が白色、嘴は夏は黒色、冬は黄色です。足も黒色で、首や足は長いです。写真のように田植え後の水田で見かけることが多いです。



チュウサギ

[ダイサギ]

最も大きな白いサギで、極端に首が細長いです。嘴は夏は黒色、冬は黄色です。足も黒色です。夏は目先がきれいな青緑色になります。深い水辺をゆっくり歩くか、じっと立っていることが多いです。



ダイサギ

※ これら3種類はいずれも、雌雄同色で、鋭い嘴で魚などをとって食べ、鳴き声はグワツ、ゴワツという感じですが、また、よく似た形をしていますので、大きさや嘴の色、首の長さなどで見分けます。なお、漢字で書くと、小鷺、中鷺、大鷺で、体の大きさを表しています。

[アマサギ]

サギでは最小です。夏は橙黄色ですが、冬は全身白くなりチュウサギに似ていますが、小さく首も短いです。嘴は黄色です。水田や草地にいますが、他のサギより乾燥したところにもいます。首が短い。グアーと鳴きます。



アマサギ

[チフチャフ]

主に冬、日本海側の島に飛来しますが数は少ないです。昨年、関西には18年振りです。テレビでも取り上げました。ウグイスに似ていますが、目は小さく、嘴は短い。上面は灰褐色、腹は白色、嘴と足は黒色です。



チフチャフ

[ニシオジロビタキ]

主に冬に飛来しますが、数は少ないです。スズメより小さい。頭頂から体上面はオリーブ褐色、喉は橙色、腹は白色、尾は広げると白色です。



ニシオジロビタキ

[ハチジョウツグミ]

主に冬に飛来しますが、数は少ないです。ツグミの亜種で、腹は橙色をしています。飛来することが非常に珍しいそうです。今年は、神鉄の鴨越駅近くの公園や森林植物園で見ることができました。



ハチジョウツグミ

■前々回・前回の報告

| 日付 | 参加者 | 司会 | 午後・森の手入れ | 木工工作 | 自然観察 | 苗づくり |
|----------|-----|------|----------|------|------|------|
| 2月21日(日) | 68名 | 横田さん | 10名 | 10名 | 5名 | 20名 |
| 3月12日(土) | 55名 | 谷本さん | 24名 | 4名 | 7名 | 4名 |

■仙人谷へ向かう散策路復旧のお知らせ



満開のコバノミツバツツジ

今年の集中豪雨のため、仙人谷へ向かう散策路の一部が崖崩れのため通

行止めとなっていました。このたび復旧工事が完了し、4月12日から通行できるようになりました。4月の例会時から森の手入れは元の作業地で行います。

■東お多福山草原再生プロジェクト

- 今後の日程を掲載します。是非ご参加ください。
- 5月25日(水) 春の調査及び外構部の刈り取り
 - 26日(木) 予備日
 - 7月20日(水) 調査及び外構部の刈り取り
 - 21日(木) 予備日
 - 10月5日(水) 秋の調査及び外構部の刈り取り
 - 6日(木) 予備日
 - 11月23日(水) 晩秋の調査及びネザサ刈り
 - 24日(木) 予備日
 - 12月10日(土) 晩秋のネザサ刈り
 - 11日(日) 予備日

お知らせ・掲示板

♠バスの運行

こうべ森の学校月例会には神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)をご利用ください。三宮の乗り場はミント神戸1階三宮バスターミナルM4停留所、9時20分発のバスに乗れば、例会に間に合います。

運行日は4月～11月の土日祝日のみで、平日の運行はありませんので、ご注意ください。

また阪急バス61系統(神戸駅南口～鈴蘭台)は通年運行しております。神戸駅南口バス停9時発のバスに乗り、水源池バス停で下車して徒歩25分で、こうべ森の学校「風楽山荘」に到着します。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次の開催予定日は4月24日(日)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠摩耶の森クラブ

次の開催予定日・活動内容については神戸市森林整備事務所にお問い合わせください。

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

- ・月例会 5月14日(土)・6月19日(日)
- 午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。
- ・上記以外の火・木・土曜日にも活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記

今、正に4月。自然界は新緑の季節になり、太陽に照らされたもみじは緑が鮮やかで、じっと見ていると心が洗われるようです。また、野鳥もヒナが若々しく、生命力に溢れ、成長しています。人間界も四月は年度替わりの月でもあり、フレッシュマンが希望に満ちて、学校に、会社に活動を始めています。

しかし未知に対する不安や人間関係の複雑さなどが絡み、落ち込んだり、自信喪失になったり、五月病になら

れる方も現れます。

そうゆう時に、病院に駆け込んだり、人に話を聞いてもらうのもいいが、再度公園のような自然界に一人で入って、じっと木々の鮮やかな緑を見、野鳥の楽しい歌声を聞いていると、自然界の生命力に満ちた力強さを貰い、人間界のちまちました事柄が霧散し、心の中に何か生き生きとした力が湧いて来ます。

この様な、一人で来ても、静かではっとする憩いの場もある、再度公園にして行きましょう。(中里 勲)